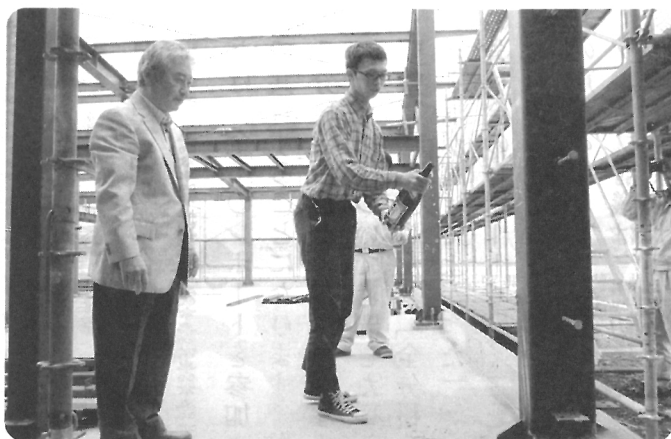




仲間の自治会「青年隊」の話し合い



上棟式



地鎮祭



完成後 仲間たちの見学



厨房を除く仲間



おひさま通信

増設棟
完成まで

川口太陽の家

はじめに

川口太陽の家の増築された建物の利用が3月14日(月)から開始されます。仲間たちは新たな場所への期待を胸に膨らませている今日この頃です。

川口太陽の家改善の話は8年前より始まります。当時の全職員から聞き取りや意見のまとめをする中で、単なる老朽化の改修ではなく、ハード面からの根本的な改善が必要だという話になりました。通所施設である川口太陽の家だけでなく、法人本部、後援会本部、相談支援センター、居宅支援事業と多くの機能を持つようになる中では機能分離をしていく必要も出てきていました。改善にあたり、①老朽化による不都合の改善②適切な広さの確保③使用用途にあった適切な設備④不便さの解消の4

点を大きな改善ポイントとして考えてきました。そのための改善の工程としては、新たな建物の増設と既存の建物の改修という形で進めていく事になりました。

仲間たちと一緒に

仲間たちの使いやすく過ごしやすい活動場所をしっかりと確保するためにも、職員からだけでなく、川口太陽の家の仲間の自治会「青年隊」も一緒に「こうなったら良いな」「今の使いにくい点を直したい」など様々な意見を出していく中で進んできました。青年隊からは以下の様な意見も出ていました。

- ・車イスでも使いやすいトイレや手洗い場
- ・お湯が出る手洗い場
- ・車イス同士ですれ違っても余裕のある廊下や建物
- ・狭いので広くしてほしい等
- ・自分たちの事だけ訴えてくるのではなく、周りの仲間や職員の事も考えて意見を出し合っていたのが印象的でした。

具体的な配慮点・作業室

既存の川口太陽の家の建物は、鉄筋コンクリートと軽量プレハブ鉄骨

の建物がつくっている構造になっています。2階には事務・施設長室・職員室・後援会本部・支援センター・居宅事業等多くの管理部門があります。その2階に上がるまでに仲間たちの活動場所が通路になっていることや、外階段で上がるにしても色々な人たちに見られながら活動しなければならぬなど、落ち着かない環境もありました。そういったことから、増設した建物の部屋は全て廊下から入れるような仲間にとって分かりやすい環境作りが大切だと職員でも意見を一致させ、設計士の和田さんに伝え共に作り上げてきました。

仲間たちの障害の特性に合わせて部屋の配置や構造なども考えています。重度知的障害の仲間が多く、自閉なども併せ持つ仲間たちの活動班「サンだいち」の部屋は、窓を多く作り明るく南向きになるように考えました。また、部屋の入口には角地を作ることによって部屋の奥まで入ることが出来ない時の居場所になるように配慮しています。入口から部屋の中へは天井が高くなる事で空間が広がっていくように見える構造も設計士の和田さんが取り入れています。

具体的な配慮点・作業室以外

仲間たちの障害特性に配慮した作

りは各部屋だけではなくありません。玄関はみんなが使うものでありますが、車イスの人たちにとっては段差があると使いづらく、知的に重い人たちにとっては段差がない事は空間や場面の転換が分かりづらいという相容れない事にもなります。誰でも使いやすいようにという事で、段差をなくした代わりに、玄関部と廊下の床の色を全く変えることにしました。また靴箱や履き替え用のソファを使った区切りを作ること、空間的に玄関と廊下の雰囲気の違いを作っていく事も考えています。

増設された建物が完成するまでの間、地鎮祭に参加するなど、仲間たちは関わってきました。建物が少しずつ出来上がっていく過程を窓越しに感じ、楽しそうに工事風景をずっと眺めている姿も見受けられました。増設する建物が完成してからは見学もし、備品などがない真新しい状態でしたが、少しずつ気持ちを作っている仲間もいます。

既存の建物の改修はこれからですが、増設された建物への引越しかから新たな川口太陽の家が動き出すのだとも思っています。みんなと作り上げる新たな日々と活動を楽しみに迎えたいと思います。

川口太陽の家職員 小野田 泰昌